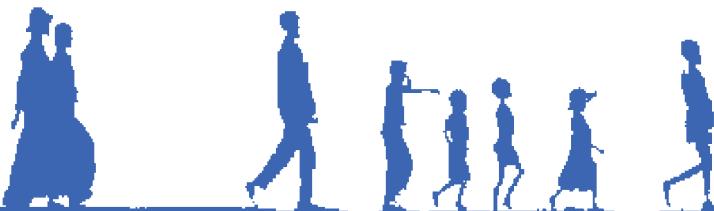


# 図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.162



2010.12

- 卷頭言
- 情報の窓口を広げよう
- 図書館利用統計
- 教員等著作寄贈図書一覧
- 図書館の動き

## 巻頭言

### 図書館ウォーキングのすすめ



分館長 中島 伸治

今年のノーベル化学賞に、米国パデュー大学の根岸英一氏と共に、北海道大学名誉教授の鈴木章氏が選ばれ、明るいニュースとして大きく報道されたことは記憶に新しい。インタビューで鈴木氏は、高校卒業後、北大では数学を専攻するつもりでいたが、大学2年生の教養部時代に「有機化学」の本を読み化学の面白さに目覚めて化学の分野へ進んだと述べている。さらに、工学部の助教授時代に研究テーマを模索中、偶然手にしたパデュー大学ブラウン博士の「有機化合物の合成に関する最新の研究」という専門書を読んで感銘を受け、ブラウン博士の研究室へ留学したことが受賞対象の研究を行う契機となったことを述懐している。人の出会いと同じように、本との出会いが、人生を大きく変えることがあるのは事実であろう。

人と本との出会いの場を提供し、様々な人と本を結びつけることが図書館の基本的な役割である。そのためには、当然ながら種々の分野の

本を揃えておかなければならぬ。静大附属図書館でも毎年1万数千冊の本を購入している。しかし、物理的スペースは限界に近づいてきており、特に浜松分館は、平成13年に浜松キャンパスでの4年一貫教育実施が完了し、学生数が約4千人と倍増したにもかかわらず、増改築なしで現在に至っている。最近、浜松工業会誌に掲載された当時の工学部長の退職挨拶文においても、浜松キャンパスは、図書館の拡張整備を除いて、静岡キャンパスと同程度あるいはそれ以上の整備ができたと述べられている。当時から浜松分館拡充の必要性が認識されていたにもかかわらず、その後行われた大学法人化という時代の大きな波に飲み込まれ、取り残されてしまったのは残念なことである。

一方、今年度リニューアルオープンした静岡キャンパスの本館では、Learning Parkというコンセプトのもと、人と本との出会いを提供するだけでなく、人と人が出会い・集い・学ぶ

空間を提供するラーニング・コモンズ スペースなどの新しい図書館の形ができておらず、分館との格差は益々大きなものになっている。ちなみに本館の4月から9月までの上半期入館者数は、約13万人で前年に比べて約3割増えている。

浜松分館でも、昨年末に、床タイルの古い部分の張り替えや、老朽化した机、椅子の入れ替えが行われた。近年、分館の入館者数は年々減少傾向にあったが、今年度上半期は約8万人となり昨年度に比べて約3千人増加している。これは、日頃利用者のためにいろいろと工夫されている図書館職員の方々の努力の成果といえる。しかし、浜松キャンパスの学生数が静岡キャンパスの約67%であるのに対して、分館の施設面積は静岡本館の約34%しかないため、本館と同じサービスを分館で提供することは不可能である。そこで現在、分館増築に関する計画の検討が行われている。

近年の大学予算削減という状況の中では、すぐに増築予算が確保できる可能性は高いとは言えないが、加藤先生（館長）の力強いリーダーシップのもと、浜松キャンパスの各部局の様々な意見を取り入れながら検討が行われている。この計画は、大学の教育研究環境の中長期的な目標と密接な関係があるので、全学的なサポートをお願いしたい。また、利用者数が増加することが、この計画を進める大きな力となるので、さらに多くの方に分館を利用して頂きたいと思う。

さて、最近、電子ジャーナルや電子ブックなど書籍の電子化が大きく進み、電子化への対応が図書館の大きな課題となっている。先日、ある新聞の記事に、米国スタンフォード大学の物理工学関係の新しい図書館は、紙の本の数が約85%減の1万冊程度になり、空いたスペースが電子情報の検索システム室や、学生の学習用談話室などに変わったと報じられていた。そして、最終的に蔵書は全て電子化される予定のことである。確かに、電子データを検索して情報を得ることは、便利で速くかつ物理的スペースがほとんど要らないという利点がある。私も大学で契約している電子ジャーナルサイトに無い参考文献を調べるため、Web上の検索サイトに

文献のタイトルを直接入力して探し、文献をダウンロードすることがよくあり、昔に比べると随分便利になったと感じている。しかし、紙の本のない図書館というものが人間にとって良いものかどうか疑問に思っている。図書館の本棚の間を本の背表紙を眺めながら歩くとき、何ともいえない安らぎを感じるのは私だけではないだろう。そのような感覚は、紙の本という柔らかな媒体であるからこそ生じるものではないかと思う。また、紙の本が電子媒体に比べて遙かに読みやすいのは言うまでもない。やはり、紙の本と電子媒体のそれぞれの長所を活かした調和のある図書館の姿が理想ではないだろうか。

最後に、読書について個人的に考えていることを述べたい。私は休日に本屋へ行くことが多いが、実はあまり読書が得意ではない。読書好きな人が本好きであるのは当然だが、本好きであっても読書が得意ではない人は結構いるのではないかと思う。読書好きな人は読書そのものを楽しめる遺伝子をもった人ではないかと密かに思っている。私事で恐縮であるが、田舎の自営業者であった私の父は読書好きを自称する人だった。ある時、私が大学の休みに帰省した際、父から、私の本棚から見つけた島崎藤村の「夜明け前」を読んで大変面白かったと聞かされ驚いたことがあった。この本は文庫本4冊からなる長編小説で、高校時代に夏休みの課題図書として読んだが、単調な内容が余りに長く続くので四苦八苦して読んだ記憶がある。この違いは、どうも私が読書に関しては母の性質を受け継いだためではないかと思っている。というのは、私の兄妹の中で妹が、成人してから父と同じように読書好きを自称するようになったからである。その後、私は読書に関してあまり無理をせず、自分にとって面白いと思われる本との出会いだけを考えて本と接してきた。

冒頭で述べた人生を変えるような本に出会うことはなかなか難しいかもしれない。しかし、何か知らない世界に目を開かせてくれる本が必ずあるはずである。そんな本に出会うために、また心身の健康のためにも、ネットサーフィンより図書館ウォーキングをおすすめしたい。

（工学部・共通講座）

# 情報の窓口を広げよう



工学部 木村 元彦

私の研究分野は、医用工学である。医用工学には、神経インターフェースと呼ばれる、人工物と神経細胞との間で情報をやりとりする技術開発の分野がある。「本」という情報メディアを医用工学の分野から観てみたい。

私事で恐縮であるが、私は小学生の頃から読書が極めて嫌いであった。その理由は簡単であり、本を読むことが面倒だからである。音や映像は自分が努力しなくとも情報が自然と頭（脳）に入る。しかしながら、本は自分で読んで理解する努力をしなければ情報として得ることができない。本は私にとって、非常に面倒な情報メディアであった。大学の教員となった今でさえも、この思いは大きくは変わっていないが、本でなければ得ることができない大事な情報が多くあることを理解したために、我慢して、時には楽しみながら、本を読めるようになった。その本がたとえ英文で書かれたものであっても、そこに書かれている情報を切望しているときは「苦労」という感覚は無くなかった。

本は情報を記録し、コピーと配信をするためのメディアと考えられる。本に書かれている情報が「絵」であれば、読者は殆ど努力することなく本に書かれている情報を得ることができる。しかしながら、文字はその図形を認識した後、自分の持っている知識と照合することによって、意味のある情報として認識できる。この照合・認識をする過程が苦労を要する。恐らく工学部の教員の多くが同様の思いがあると想像しているが、私は中学生の頃から、本を読むことなく情報を脳に入力することが将来可能になるのではないかと思っている。例えば、ヘルメットのような形状のものを頭にかぶるだけで、何十冊もの本の情報を瞬時に頭に入れることのできる装置である。残念ながら、そのような装置は私の知る限り実存しない。

極めてSF的な空想になるが、今後の技術者

の努力によって、もしも、人間の脳と人工の電気信号との高速大容量のインターフェースが実現できれば、現代の情報技術は人間の脳に直接的に情報配信をすることができるようになる。このような技術が完成すると、長い時間をかけて長編小説を読む必要もなくなり、また、難解な専門書も瞬時に理解できるようになるかもしれない。しかしながら、一方で、従来の方法で「時間をかけて本を読む楽しみ」が消失してしまうかもしれない。このような時代には、紙に書かれた本では無く、電子媒体に記録された情報が本の役割をするようになると想像される。

さて、未来のSF的な空想から現実に戻って、どのようにしたら情報を短時間により多く脳に入力できるかということを考えながら街中を歩いていると、携帯電話と「にらめっこ」しながら歩いている非常に多くの若者達が気になって仕方が無い。現代の高校生や大学生にとって、携帯電話は最大の情報源になっているように思われる。半世紀を生きてしまった私（51歳）には、本を持っている二宮尊徳（金治郎）が携帯電話を「読んでいる」姿を想像すると、現代の若者は「携帯教信者」ではないかとさえ感じている。

数年前から画面が少しだけ大きな携帯電話が販売されるようになったが、パソコンやテレビの画面、新聞の紙面の大きさと比較すれば、携帯電話の情報量がいかに少ないかは皆が認める事と思う。

私の専門である工学の分野でも情報は極めて重要である。何年も前の話だが、インターネットの情報で、ある企業が体温で動作する腕時計を開発していることを知り、当時の私の研究テーマであった心臓ペースメーカーに応用して学会で表彰されたこともあった。

多くの大学生は、下宿生活をしていることもあって、新聞をとっていない。私の世代では信

じられない状況にある。実際に、私の知人の新聞記者も、将来は紙に印刷した新聞は無くなってしまうのではないかと危惧している。恐らく、本も新聞と同様の傾向があるようと思われる。私の世代であれば、調べ物は図書館に行くのが定石であったが、現代は、先ずインターネットである。私自身もインターネットの情報を利用させてもらっているので、その有用性を否定はしないが、本や論文で調べることが極めて有効であり、正確で奥の深い情報が得られると感じている。誰でも経験のあることと思われるが、携帯電話やパソコンの画面と比較して、本や新聞は読みやすい。つまり、紙に印刷されたものからは、情報を素早く収集できる。電子媒体は、検索機能は抜群に優れているが、読みやすさの

点では、印刷されたものが一番である。

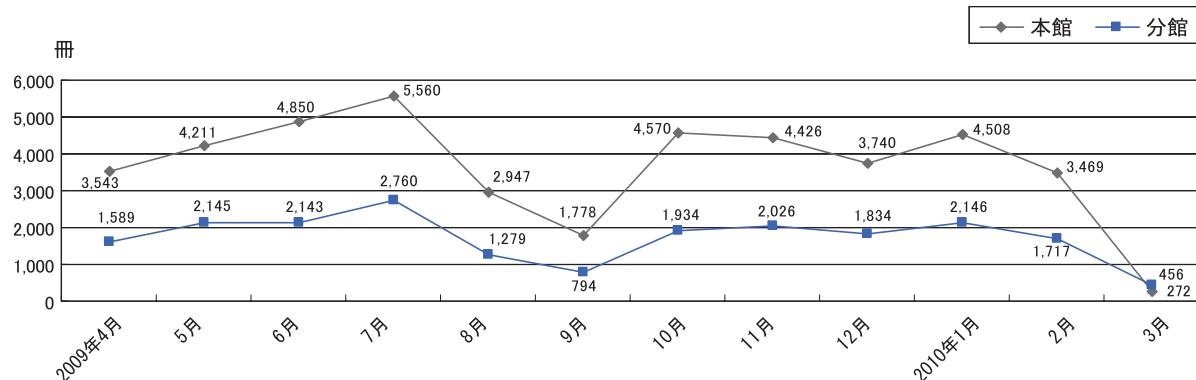
人間の脳に情報を直接的に入力する技術が開発されていない現代においては、本は、大量の情報を最も見やすい形で提供してくれるものである。インターネット等は、入手すべき本を選択する際に役立てれば良い。正確な情報を印刷された本から得ることに価値を感じることが大事だと思う。学生時代には、限られた生活費の中で本を購入することに抵抗を感じるかも知れないが、就職後も収入の一部を仕事に関連した本代に充てるという習慣を持つと良いと思う。本は自分に対する投資である。ときどき期待はずれの本にも出会うが、多くの本は我々の人生を精神的に、また、経済的にも豊かにしてくれると信じている。  
(工学部・物質工学科)

## ◆◆◆◆ 平成21年度図書館利用統計



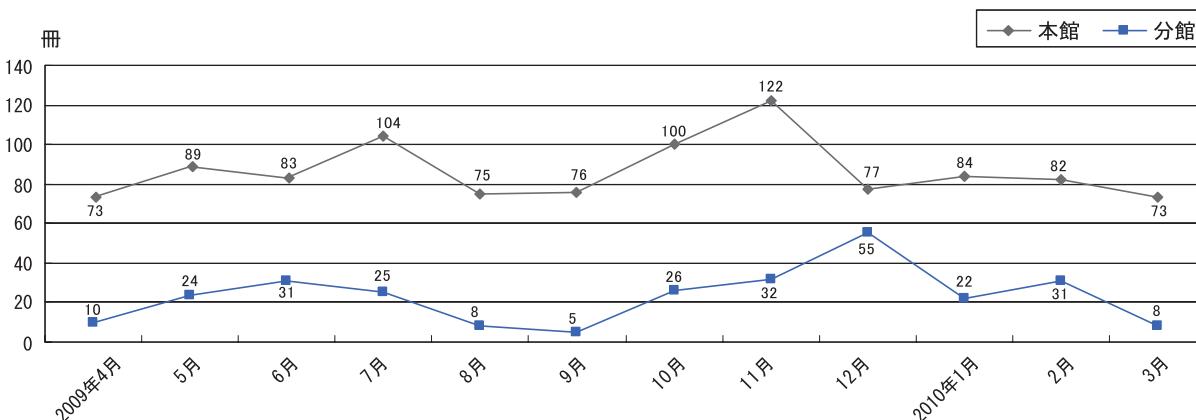
### 貸出冊数（月毎）

平成20年度に比べて約7%減となった(図書館リニューアル工事による閉館等のため)。



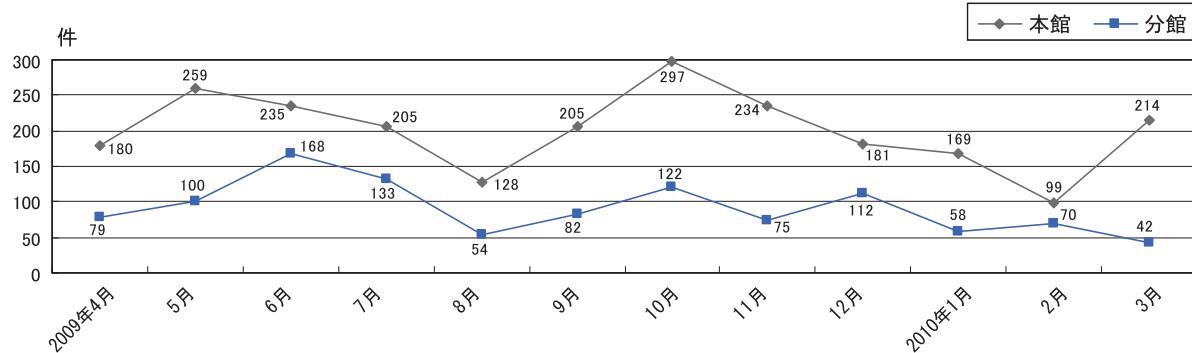
### 他館からの図書借受冊数（月毎）

平成20年度に比べて約27%増となった(学習・研究用図書の不足が示唆される。)。



## 他館への文献複写依頼件数（月毎）

平成20年度と比べて微増となった。



## ～教員等著作寄贈図書一覧～

### ●本館受入

#### ◇伊藤富夫（教育学部）

- ・歴史の中のカブトガニ：古文書でたどるカブトガニ [サイエンスハウス] <監修者>  
静・開架[485.6/I89]

#### ◇大野旭（人文学部）

- ・論文集 [内蒙古社会科学院] <執筆>  
静・書庫[222.6/C62/T]
- ・墓標なき草原：内モンゴルにおける文化大革・虐殺の記録（上）・（下）[岩波書店] <著者>  
静・開架[222.6/Y72/1-2]
- ・入門社会経済学：資本主義を理解する  
[ナカニシヤ出版] <著者> 静・書庫[331/N99]

#### ◇狩野謙一（理学部）

- ・構造地質学 [共立出版] <著者>  
静・書庫[455/A43]

#### ◇澤田治美（元教員）

- ・世界言語百科：ビジュアル版：現用・危機・絶滅言語1000 [柊風舎] <監修者>  
静・参考[801.3/A95]

#### ◇鈴木清史（人文学部）

- ・川根本町・水川（フィールドワーク実習調査報告書）  
[静岡大学人文学部社会学科] <委員>  
静・開架[382.154/SH94/2009]

#### ◇遠山弘徳（人文学部）

- ・入門社会経済学：資本主義を理解する  
[ナカニシヤ出版] <著者> 静・書庫[331/N99]

#### ◇富田涼都（農学部）

- ・環境：設計の思想 [東信堂] <執筆>  
静・開架[519.04/MA83]
- ・環境倫理学 [東京大学出版会] <執筆>  
静・開架[519/KI77]

このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたもので。(各館五十音順)

### ◇増沢武弘（理学部）

- ・南アルプス：地形と生物 <編著>  
[静岡県県民部環境局環境ふれあい室]  
静・書庫[402.915/MA69]

### ◇林愛明（理学部）

- ・地震の化石：シェードタキライトの形成と保存 [近未来社] <著者>  
静・書庫[453.12/R45]
- ・四川大地震：中国四川大地震の地震断層と被害写真集：フォトルポルタージュ [近未来社] <著者>  
静・書庫[453.222/R45]
- ・地震化石：假熔岩的形成与保存 [高等教育出版社] <著者>  
静・書庫[454.4/R45/T]

- ・Fossil earthquakes:the formation and preservation of Pseudotachylytes [springer] <著者>  
静・書庫[450.8/L49/111]
- ・The great Wenchuan earthquake of 2008: a photographic atlas of surface rupture and related disaster [Higher education press] <著者>  
静・書庫[453.222/R45]

### ●分館受入

#### ◇大野旭（人文学部）

- ・蒙古源流：内モンゴル自治区オルドス市档案館所蔵の二種類の写本 [風響社] <編著>  
浜・開架[222.6/Y72]

#### ◇竹林洋一（創造科学技術大学院）

- ・ミンスキ博士の脳の探検：常識・感情・自己とは [共立出版] <訳者>  
浜・開架[141/MI47]

- ◇戸田三津夫（工学部）  
 • 西遠都市圏パーソントリップ調査報告書  
 [西遠都市圏総合都市交通計画協議会]  
 〈研究分担者〉 浜・開架【681.8/SE17/1-6】
- ◇符徳勝（若手グローバル）  
 • 動的構造解析技術と非平衡物質開発の最前線  
 [シーエムシー出版] 〈執筆〉  
 浜・開架【549/D88】

- ◇松田智（工学部）  
 • 幻想のバイオ燃料：科学技術的見地から地球  
 環境保全対策を斬る [日刊工業新聞社]  
 〈著者〉 浜・開架【575.15/KU14】

### ●本館・分館共通受入

- ◇宇都宮裕章（教育学部）  
 • 対話でみがくことばの力：互いの異なりを活  
 かすグループワーク26 [ナカニシヤ出版]  
 〈編著〉  
 【810.7/U96】静・開架・書庫/浜・開架
- ブラジル人学校等における日本語指導の状況  
 及び課題：文部科学省委託：平成21年度外国人  
 教育に関する調査研究成果報告書 [静岡大学]  
 〈編著〉  
 【376.9/U96/1-2】静・書庫/浜・開架

- ◇大野旭（人文学部）  
 • 内モンゴル人民革命党肅清事件 [風響社]  
 〈編著〉  
 【312.227/Y72/2】静・書庫/浜・開架
- シンポジウム日本とアジアの相互の照射：近  
 代日本とアジアはお互いをどのように捉えて  
 きたか：要旨集 [静岡大学人文学部アジア研  
 究センター] 〈執筆〉  
 【319.102/SH69】静・書庫/浜・開架
- 中国南北の国境地域における多民族のネット  
 ワーク構築と文化の動態 [国立民族学博物館]  
 〈執筆〉  
 【382.2/C62】静・書庫/浜・開架

- ◇小西潤子（教育学部）  
 • オセアニア学 [京都大学学術出版会] 〈執筆〉  
 【297/O75】静・書庫/浜・開架
- ◇重岡廣男（教育学部）  
 • 谷津山を想う [谷津山再生協議会] 〈代表〉  
 【291.54/Y66】静・開架,書庫/浜・開架

- ◇遠山弘徳（教育学部）  
 • 資本主義の多様性分析のために：制度と経済  
 パフォーマンス [ナカニシヤ出版] 〈著者〉  
 【332.06/T079】静・書庫/浜・開架
- ◇野方宏（人文学部）  
 • 地域産業とネットワーク：京都府北部を中心  
 として [新評論] 〈執筆〉  
 【602.162/MA86】静・書庫/浜・開架

- ◇矢野敬一（教育学部）  
 • 食文化から社会がわかる [青弓社] 〈著者〉  
 【383.8/SH96】静・書庫/浜・開架
- ◇吉村仁（創造科学技術大学院）  
 • 強い者は生き残れない：環境から考える新し  
 い進化論 [新潮社] 〈著者〉  
 【467.5/Y91】静・書庫/浜・開架

## ∞∞図書館の動き∞∞

### ◆行事

- 本館リニューアルオープン  
 〈4月5日(月)〉

「附属図書館の安全確保と利用スペースの高活用」  
 を検討、改修工事に着手した本館は平成22年4月  
 5日に新たなフロア構成でリニューアルオープン  
 した。オープンに先立ち3月29日に内覧会を開催、  
 またオープン当日は職員が館内ツアーを行った。

### 静大フェスタ

- 〈6月5日(土)・6日(日) 於：静岡県コンベン  
 ションアーツセンター「グランシップ」大ホール・  
 海〉

静岡大学の大学開放事業として様々な催し物を  
 行った中で、図書館では「メモリアル写真展」と  
 題した写真パネル展示を行ない、当日は多数の来  
 場者が訪れ、盛況にうちに終了した。

### ◆会議等

- 平成22年度静岡県図書館協会総会  
 〈4月16日(金) 於：静岡県立大学〉  
 図書館情報課長が出席

役員承認、平成21年度事業報告及び決算報告、  
 平成22年度事業計画及び予算の件について協議が  
 行われ、引き続き、図書館名変更及び新設図書館  
 について、平成22年度静岡県図書館協会の加盟館  
 について等の報告があった。

### 平成22年度

- 東海・北陸地区国立大学図書館協会総会  
 〈4月23日(金) 於：福井大学〉  
 附属図書館長、学術情報部長、図書館情報課長が  
 出席

電子ジャーナルに関わる諸問題と今後の展望に  
 ついて、平成22年度東海・北陸地区国立大学法人  
 等事務系(図書)職員採用試験について等の報告  
 があり、引き続き、会長館の選出、第57回国立大  
 学図書館協会総会に向けた準備事項、平成22年度  
 東海・北陸地区事業計画について、市場化テスト

への対応について、大学図書館の学習・教育支援の強化等について、活発な協議が行われた。

### 第57回国立大学図書館協会総会

〈6月17日(木)・18日(金) 於：北海道大学〉  
附属図書館長、学術情報部長、図書館情報課長が出席

91大学・機関が出席し、協会活動についての経過報告に続き、平成21年度決算報告、平成22年度事業計画（案）、予算（案）等について協議が行われた。また、文部科学省研究振興局情報課長から、所管事項として「科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会における審議状況」「市場化テストを巡る最近の動向」等について説明があり、引き続き、「今後の大学図書館の業務運営の在り方について」「大学図書館の新たなサービス展開と図書館組織・人材育成について」の2つのテーマによるワークショップが開催され、各種の報告やアンケート調査に基づいて活発な議論が行われた。

### 平成22年度静岡県大学図書館協議会総会

〈7月23日(金) 於：静岡大学〉  
附属図書館長、学術情報部長、図書館情報課長、副課長が出席

新規加盟の順天堂大学三島キャンパス図書館を含めて19館28名が参加し、平成21年度経過報告のあと、平成21年度決算報告（案）及び同会計監査報告、平成22年度事業計画（案）及び同予算（案）等について協議が行われた。また、加盟館状況報告では、設置形態が異なる図書館ごとに最近の図書館の状況について報告があり、引き続き、意見交換が行われ、加盟館相互の連携を深める上で有意義な情報交換が行われた。

### 平成22年度第1回附属図書館委員会

〈4月28日(水)〉

- 附属図書館関連委員会委員等について
  - 広報委員会委員
  - 情報基盤センター運営委員会委員
  - 図書館通信編集委員
  - 附属図書館自己点検・評価実施委員会委員
  - 電子ジャーナルWG
- 第二期中期目標期間における附属図書館の年次計画について

○報告事項

- 本館リニューアルについて
- 平成22年度附属図書館事業計画について
- 電子ジャーナル等のアクセス状況報告について

### 平成22年度第2回附属図書館委員会

〈7月30日(金)〉

○審議事項

- 平成21年度附属図書館経費決算について
- 平成22年度附属図書館経費予算について
- 平成22年度学生用図書購入費の配分について

○報告事項

- 附属図書館利用状況について
- 平成22年度図書館利用セミナー(ベイシック編)実施報告について
- 研究室貸出図書の点検予定について
- 停電に伴う図書館の休館について
- 閲覧室へのマイボトル持込(試行)について
- ギャラリー活動報告について
- その他
  - 浜松分館改修に向けた基本合意形成のための部局長等による第1回打合せについて
  - 次期図書館業務用電子計算機システムについて
  - 電子ジャーナル等の契約状況について

### ◆人事異動

#### 平成22年3月1日付

村上真佐子 [図書館チームスタッフ (利用サービス：情報サービス担当) → (分館資料担当)]

#### 平成22年3月31日付

塚本 雅美 [図書館チーム副課長→定年退職]

#### 平成22年4月1日付

青池 菜衣 [横浜国立大学図書館情報部図書館情報課→図書館チームスタッフ (利用サービス：レンタルサービス担当)]

滝田 公一 [研究協力・情報チーム主査 (情報企画担当) →図書館チーム副課長]

長谷川敬司 [図書館チーム主任 (分館資料担当) →施設チーム主査 (総務契約担当)]

片瀬 雅裕 [図書館チーム主任 (図書館マネジメント：企画調整担当) →主査 (図書館マネジメント：企画調整担当)]

名波 一明 [図書館チーム主任 (利用サービス：レンタルサービス担当) →主査 (利用サービス：レンタルサービス・情報サービス担当)]

江口 敏一 [図書館チームスタッフ (分館資料担当) →主任 (学術資料：雑誌情報担当)]

釜田香寿枝 [図書館チーム主査 (分館サービス担当) → (学術資料：雑誌情報担

当) ]

真中 進 [図書館チーム主査 (学術資料:雑誌情報担当) 兼務を免除]

小濱 進 [図書館チーム主査 (利用サービス: 情報サービス・レファレンス担当)  
→ (分館サービス担当)]

瀧谷 卓三 [図書館チーム主査 (図書館マネジメント:企画調整担当) →教育学部附属浜松中学校事務係長]

高橋 里江 [図書館チームスタッフ (利用サービス: レファレンス担当) → (利用サービス: 情報サービス担当)]

太田 憲吾 [浜松会計チームスタッフ (第三担当) →図書館チームスタッフ (分館資料担当)]

平成22年7月1日付

太田 憲吾 [図書館チームスタッフ (分館資料担当) →主任 (分館資料担当)]

平成22年8月1日付

松下 昭重 [図書館チームスタッフ (利用サービス: 情報サービス担当) →主任 (利用サービス: 情報サービス担当)]

## ◆平成22年度附属図書館委員会委員

館 長	加藤憲二
分館長	中島伸治
人文学部	桐谷 仁 酒井英行
教育学部	西野 肇 高橋智子
情報学部	北澤茂良 笹原 恵
理学部	土屋麻人 天野豊己
工学部	酒井克彦
農学部	森田達也 原田 久
創造科学技術大学院	喜多隆介
法務研究科	阿波連正一
電子工学研究所	中本正幸 木下治久
大学教育センター会議	小町将之
学術情報部長	大久保政博

## ◆平成22年度図書館通信編集委員

館 長	加藤憲二
分館長	中島伸治
大学教育センター会議	小町将之
(附属図書館)	茎田美保子
	滝田公一
	小野華子
	青池菜衣
	森部圭亮

## 開館日程〔2010年11月～2011年3月〕

## 静岡・浜松共通 開館日程

2010年11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2010年12月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2011年1月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2011年2月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9:00～22:00
9:00～19:00
9:00～17:00
休館

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第162号 (平成22年12月1日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel.054-238-4474 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

